

# 認知症ケアについて

～グループホームの実践から～

栗山町立北海道介護福祉学校

1

『認知症と人へのアプローチ』

～ 介護に携わるすべての人に ～

2

## 今日のメニュー

- ・ 認知症について
- ・ CAREとケア
- ・ CARE感覚を研ぎ澄ますBeing法『認知症CAREと所作』
- ・ 認知症とは？
- ・ 有する能力に応じる一人称CAREとケア
- ・ まとめ

3

## 2つの大きな柱

1. 病気にならないため
- 2. 病気になっても大丈夫**

4

## 『人』と『認知症』についての メッセージ

5

### メッセージ

僕がこの業界にお世話になったのが、昭和63年の7月でした。特養の寮父としてでした。人前で話をするようになった頃、**介護の現場は、不可思議な言動を問題行動**と言っていました。しかし、生活をベースに彼らの生活を丁寧に紐解いていった結果、そこには様々な要因や誘因が複雑に絡み合っ、尚且つ、複雑に絡み合った状況や状態に**応じるかのように、彼らなりの応じ方**をしていることに気がついたのです。

つまり、**彼らの有する能力に**応じて**いただけの姿があっただけでした**。そこで考えたのが生活そのものを見直し、彼らがこれまで通り応じて来た姿を取り戻そう、若しくは、**それ以上困らないような心地よい生活環境を整える支援**をして来たのです。

その結果、なんと！改善又は解消、若しくはこれまで通りの社会生活を取り戻していき、**症状としての改善と同時に「生きる」姿を主体的に獲得していった**のです。

それが**認知症対応型共同生活（グループホーム）**でした。

ですから、もし『BPSD』という言葉を生生活モデル的？式？に表現しますと、**適応行動・状態**と伝えています。

その方が、人間として筋が通っていると感じるのですが、いかがでしょうか？

6

## 『認知症とは？』

7

## 介護保険法上の定義

(認知症に関する調査研究の推進等)

第五条の二 国及び地方公共団体は、被保険者に対して認知症（脳血管疾患アルツハイマー病その他の要因に基づく脳の器質的な変化により日常生活に支障が生じる程度にまで記憶機能及びその他の認知機能が低下した状態をいう。以下同じ。）に係る適切な保健医療サービス及び福祉サービスを提供するため、認知症の予防、診断及び治療並びに認知症である者の心身の特性に応じた介護方法に関する調査研究の推進並びにその成果の活用に努めるとともに、認知症である者の支援に係る人材の確保及び資質の向上を図るために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

8

## 介護保険法上からの抜粋

- 脳血管疾患、アルツハイマー病その他の要因に基づく
- 脳の器質的な変化により
- 日常生活に支障が生じる程度にまで
- 記憶機能及びその他の認知機能が低下した状態をいう

9

彼らが困っているのは？

ポイントはここ！！

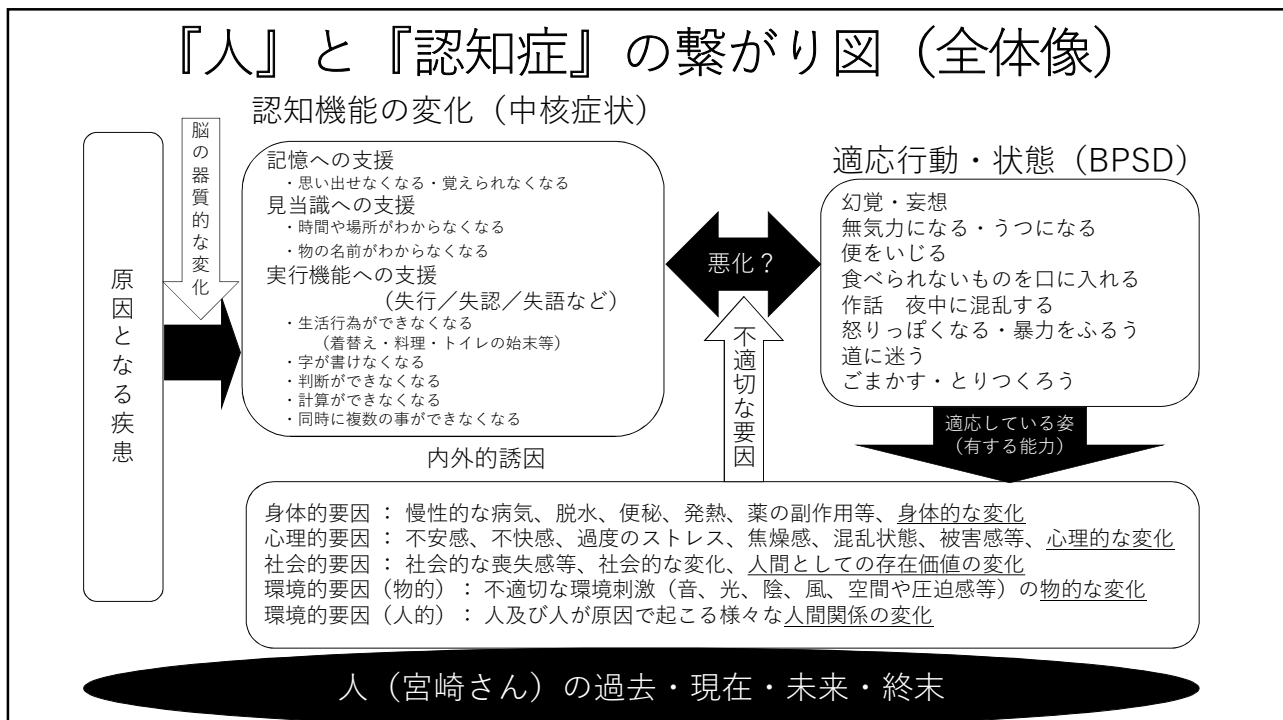
10

彼らが困っているポイントはここ！！

## 日常生活に支障が生じる

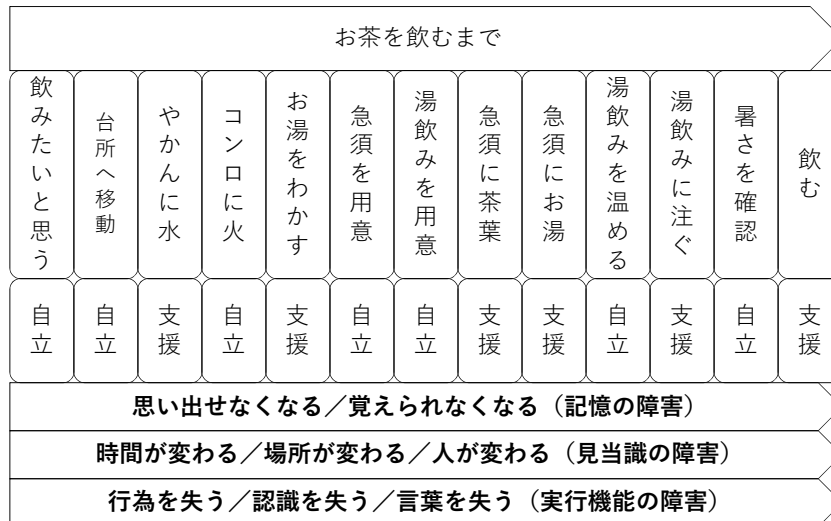
これまでできていたことが  
できたりできなかつたりと  
困難と思える状態へと向かう

11



12

生活の支援のポイント 『生活の点の見極めから線へ繋げる（生活の再構築）』  
認知症の状態にある人の生活行為の困りごとと支援の仕組み



13

# 『あえて認知症ケアとは？』

ということは？

14

何度も言いますが、彼らが困っているポイントはここ！！

## 日常生活に支障が 生じないようにする

生活をできるだけ繋げる支え方

15

### 演習

## 夜中、仕事に行くと 何度も起きてくる方がいます

この方は女性です

起きてくる時間帯は、午前2時から3時頃です

不定期です

年齢は、70代後半

右足を少し引きずり気味に歩きます

ADLは自立しています。便秘気味です。

16



何故  
起きて来るとおもうか？

あなたが考える  
○○かもしれないを考えてみて下さい。

17

嘘と本当

T世田さんの場合

18

# 『「CARE」と「ケア」』

19

CAREとは⇒気を配ること

ケアとは⇒介護、世話

20

「CARE」と「ケア」

21

例えば  
虐待や不適切なケア

22

「虐待（不適切なケア）を無意識的に無くす方程式」

**良質なCARE × 良質な所作 = 良質な信頼と関係**



**良質なケア（お互いの心地良さ）**

**考え続けること**

**語り合うこと**

**伝え続けること**

23

良質なケア（所作）は  
良質なCAREから生まれる

**Naoto**

24

『CARE感覚を研ぎ澄ますBeing法』

基本 七ヶ条

25

その一

【丁寧にかかわる】

26

その二

【繋がるきっかけを投げかけてみる】

27

その三

【相手に応じる】

28

その四

【相談事を持ちかける】

29

その五

【とにかく賞賛、讃える、時に褒めるもあり】

30

その六

【リアクションは大きく】

31

その七

【付かず離れず、適度な距離感を作る】

32



『有する能力に応じる一人称CARE』

33

『生活（行為）の繋がりを見極める』

アルツハイマー型認知症の支援のキーワード

34

# 認知症対応型通所介護編

自宅で夫と二人暮らしをする佐々さんの場合

35

# 認知症対応型共同生活介護編

グループホーム編

36

# ジャガイモの皮むき

岡さんの場合

37

# ほうきとちりとり

中さんの場合

38

# カスベの煮付け編

武田さんの場合

39

人は常に何かと繋がっている  
そのことで様々な関係と  
自分とのバランスを保っている  
(人 物 地域 感じる全てetc)

40

# 『生活に対する意欲を見極める』

脳血管性認知症の支援のキーワード

41

# リサイクル発明品編

西川さんの場合

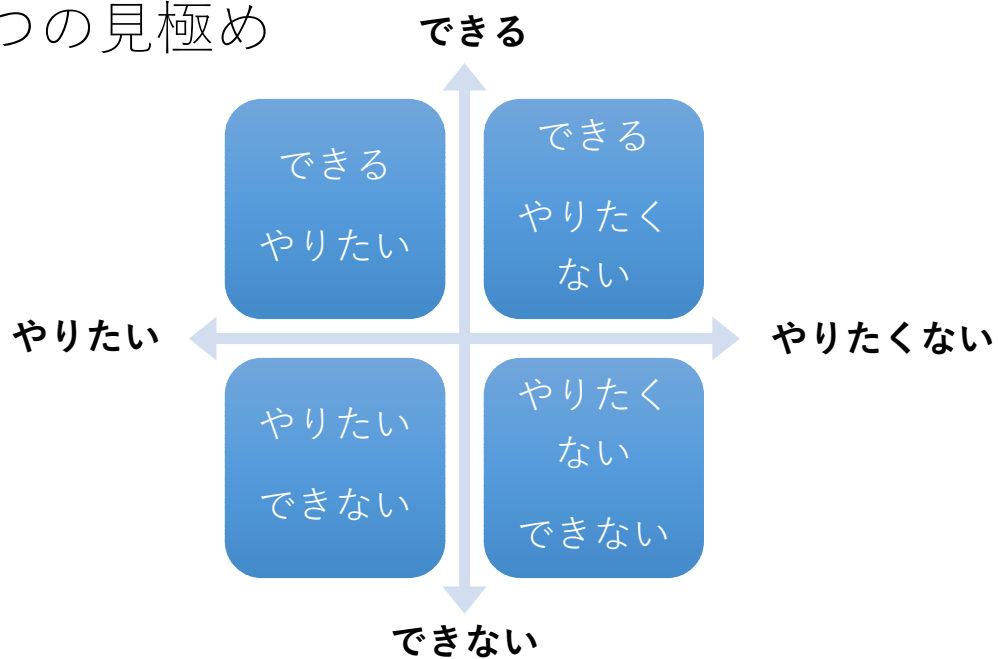
42

## Nさんからの普遍の7つの教え

1. 主体的に行っていること
2. やりたいことであること
3. 好きなことであること
4. 人の役に立つこと
5. 人に喜ばれること
6. 人に伝えられること
7. 生業（なりわい）と繋がっていること

43

## 4つの見極め



44

## 「認知症」と「人」のCARE・ケア 3つの大切なこと

- ①『自分のことは自分ですること』
- ②『お互いに助け合うこと』
- ③『社会と繋がっていること』

45

まとめ

46

## 前提を変える

### 『の』から『と』へのすすめ

47

『の』から『と』へ

『認知症の人』

『認知症』 と 『人』



認知症を通して人を一括りに捉える文化

人と認知症をそれぞれ捉える文化

48



人として  
生きてきた姿が尊ばれ  
生きている姿に関心が向けられ  
生きてゆく姿そのものの創造に  
役立てること

認知症CAREの哲学より

Naoto

49

ひとは  
どのような状態であっても  
感情・感性は最期まで  
そこに「在る」ものです

悲しみ・怒り・羨望・不安・愛

50

## みなさんへ贈る3つの大切な『こと』

1. ひとりで抱え込まないこと
2. うまくいくケアばかりに気を取られ  
人の気持ちをどこかに置き去りにしないこと
3. 人と人との信頼関係を最優先に築くこと

51

## 良質なCAER⇔良質なケア

CAREとは⇒気を配ること

ケアとは⇒介護、世話

52

## 2つの大きな柱

### 1. 病気にならないため

⇒自分を豊かに生きる

### 2. 病気になっても大丈夫

⇒懐の大きさ・寛容さが自分を救う

53

皆さんお疲れ様でした。  
ありがとうございました。

54